

5. 機械金属 部会

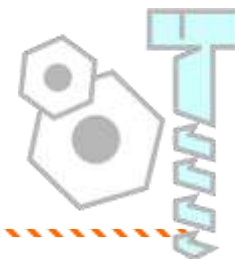
西岡 勝樹 部会長

5. Departamento de Metalmeccânica

Presidente: Katsuki Nishioka



業種別部会長シンポジウム



機械金属部会

「2009年上期の回顧と下期の展望」

業種・分野別分類

- | | |
|----------------|--------------|
| 1. 鉄鋼(鋼板) | 7. 各種工具/精密機器 |
| 2. 電力・大型プロジェクト | 8. 軸受 |
| 3. プラント | 9. 農業機械 |
| 4. 建設機械 | 10. 電動工具 |
| 5. 産業用圧縮機 | 11. 潤滑油 |
| 6. 鋳造機械 | |

2009年8月18日

日立製作所 西岡



1.鉄鋼(鋼板)

2009年上期の回顧

昨年8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 60

概況

国内市場:金融危機の影響 昨年4Qに急落
本年徐々に回復 前年同期比▲42%

輸出:国際マーケット需要冷え込み
前年同期比▲13.3%

輸入:昨年急増したが、国内供給力回復で
減り始めている。

粗鋼生産量 昨年1,740万トンから
1,056万トン ▲39.5%

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 130

概況

国内市場:自動車産業中心 販売回復
が見られる。上期比23.38%と予想。

輸出:国内需要の回復の期待、輸出増を
狙い、休止中の高炉6基中3基再稼動
決定。国内需要の回復のスピードは
少し遅い、輸出大幅増の予想。

輸入:国内供給力が増えた。輸入は
徐々に従来のレベルに。

2.電力 及び 大型プロジェクト

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 90

概況

電力(変電):金融危機の影響あったが、
その他顧客調整し、売上影響なし。

電機:ペトロbras向け圧縮機入札多数

大型プロジェクト:新幹線プロジェクト
入札発表 近く予定。

地下鉄 リオセントラル向け電機品受注
モノレール案件入札。

デジタル放送機器:厳しい期間

放送局の投資先送り。ペルーの採用。

その他:オートバイ マナウス工場建設中。

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 110

概況

電力(変電):生産計画 埋まっている。
市場ニーズ 後退は無い。

電機:ペトロbras向け圧縮機入札継続。

大型PJ:新幹線入札公表、事業権者決定。

地下鉄新規案件 旺盛な需要

デジタル放送機器:政府の普及政策がカギ
更なる南米他国の採用結果。

船舶用機械:ペトロbrasからの発注増
船舶業界賑わいを見せている。

3.プラント(紙パルプ・石油化学・エタノール等)

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 80

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 115

概況

紙パルプ業界:金融危機の影響

紙パルプ需要減、輸出価格下落、
設備投資 見合わせ。ボイラー改造の
商談はあるが、進展は無い。

石油化学業界:ペトロブラスの好調な業績と

投資意欲に支えられ、引き続き堅調

鉄鋼・非鉄業界:国際市場価格下落、

減産、延期、見直しが見られた。

エタノール業界:原油価格低調

原油との価格差 小

投資はほとんど無い。

概況

紙パルプ業界:世界経済の安定すれば、
投資再開。再開は2011年以降と予想。
引き続き厳しいと予想。

石油化学業界:ペトロブラス 5カ年計画
17兆円投資計画 大きな期待

鉄鋼・非鉄業界:需要回復傾向、本格回復、
設備投資再開 2010年以降か?

エタノール業界:新規投資商談望めず、
金融危機の影響いつまで続くか?

ペトロブラス 頼み

4.建設機械

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 70

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 90

概況

国内需要 2008 4Q から下がり
2009 1Q ▲30%(昨年同期比)
2009 2Q ▲40%(同)

輸出総台数 2008 4Q 大幅落込
2009年上期 ▲77%
日欧米 在庫調整終えていない。

概況

国内需要 2009 下期 低水準
2009 通期予測 ▲40% (前年比)
例年雨季の下期は上期より販売少ない
傾向 若干好転する感覚

輸出総台数

中国・インド 新興国回復基調
ではあるが、ほぼ横ばい
2009 通期予測 ▲70%
操業短縮・残業カット対策

5.産業用圧縮機

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 65

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 110

概況

食品業界:金融危機以前に投資済
現状 設備投資意欲 非常に低い
大手食品会社の統合(設備投資縮小)
豚・牛肉 輸出伸び悩み
鶏肉 やや上向き
飲料産業 まずまず好調
ペトロケミカル業界:ペトロプラス 海外との
連携強化、設備投資強化。
新規大型案件は国際化進む。
アルコール市場 若干の設備投資

概況

食品業界:鶏肉産業 比較的好調
2009後半 設備投資・計画実施
力ある会社 来るべき輸出需要増に対応
飲料業界:本年度投資計画終了
来年度の計画模索中
ペトロケミカル業界:ペトロプラス関連
時間は掛かるがプラットフォームの
新規投資計画期待
ペトロプラス以外のケミカル業界
期待薄

6. 鑄造機械

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 90

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 120

概況

鑄造業界:自動車・鉄鋼の大幅生産、
輸出ダウン

2009上期▲42%(昨年同期比)

投射材市場:自動車・鉄鋼関連の
影響大

2009上期▲41%

石材業界:2009上期▲22%

概況

鑄造業界:回復するも

2009下期予想▲20~30%(昨年比)

投射材市場:回復するも

2009下期予想▲20~30%(昨年比)

石材業界:横ばい予想

今後の建設需要次第、回復期待

7. 各種工具/精密機器 (切削工具、耐磨工具、他)

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 70

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 120

概況

切削工具: 自動車の販売急激な回復だが、
緩やかな回復。数字的には2月が底。
輸出は低調。部品生産 客先 在庫過多、
販売回復まだ。在庫消化 年内掛かるか
耐磨耗工具: 受注50%と低迷
キャンセル対応と納期調整
精密機械工具: 販売実績 70%止まり
在庫過多、投資様子見。
教育・研究 受注底堅い
ICMS税制変更の影響が大、
販売に多大な影響が出た。

概況

切削工具: 自動車生産に牽引され
確実に回復。但し、2007 レベルか
耐磨耗工具: 寿命による更新数件の見込み
新規案件は難しい。
精密機械工具: 自動車好調なるも下期の
販売にはタイムラグあり、楽観は許さない。
但し、一部代理店の在庫も減少しており
決して悲観一辺倒では無い。
下期は上期に対し、5%~10%に設定
経費削減、利益確保 次の成長に備え再出発

8.軸受

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 70

概況

鉄鋼、農業、電機等各産業分野:輸出需要の低迷、在庫過多によりOEM、アフターマーケット双方 大幅売上落込み

自動車軸受分野: IPI減税効果、内需の強さ比較的好調。(トラック除く)売上も2Q以降回復に向かいつつある。

両分野とも顧客のグローバル調達進展、レアル高、中国製廉価輸入、競争激化

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 115

概況

自動車IPI減税率 段階的に引き上げ
多少、販売鈍化の懸念あるが、
自動車生産・販売は高水準と予測。
下期は対上期でかなり改善されると期待。

一般産業分野:世界的な需要回復遅れ、
レアル高、輸出の低迷が懸念

一般産業向けの回復は2009 4Q以降か

9. 農業機械

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 100

概況

エンジンビジネス: 2009 4Qから急激に冷え込んだ。2009 3月回復の兆し
2009 2Q 95%レベルまで回復
金額ベース 2009 上期全体 90%
台数ベース 2009 上期全体 75%

トラクタービジネス: 小規模農家支援
政府低金利融資政策 小型トラクター好調。
政府の価格コントロールで採算では厳しい。

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 110

概況

エンジンビジネス: OEM先、ディーラー
エンジン在庫適正レベルに戻る
下期販売 台数ベース 90%
金額ベース 昨年並み
一部製品で安価な中国製流入の為
落ち込み予想。
年間では 金額ベース 90%以上の
達成を期待。
トラクタービジネス: 低利子政策 引き続き
好調維持を期待。

10.電動工具

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 80

概況

建設関連 大きな落込みは見られず。

グラインダー等の鉄鋼関連工具は
工場関連の低迷により40%近い落込み。

但し、レシーフェなど北東部は金融危機を
殆ど受けず、順調に推移。

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 120

概況

買い控えをしていた販売店の在庫が
手薄に成ってきた。景気回復に伴い、
販売もアップ。

一方でドル安で中国製の安価ブランド参入
価格競争激化。

11.潤滑油

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 70

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 105

概況

金融危機 昨年11月から顧客生産調整
生産数量 極度に低下
2009 1Q 50%近く落ち込む
政府減税政策 自動車生産回復
販売 70%まで回復

しかし 二輪車生産 依然、低迷
今後とも 厳しい経営環境を予想。

概況

米国経済低迷続くが、中国の経済回復が早い
下期 ブラジル経済も回復傾向にある。
牽引役は農業部門。
工業部門は80%~90%の生産回復か

通期でも 「雨」 が降り続くか ??

機械金属部会 全体

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 70

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 120

概況

2008年9月リーマンショック以降 成長にブレーキが掛かった。
しかし、政府の自動車・白物家電への減税対策、その他 景気刺激策。
ペトロブラスの変わらぬ積極投資の恩恵。
各業種・産業 回復の兆しが見えてきた。



薄日が差してきた？

世界金融・経済危機による底は脱したか？

部会参加社 全員 はい